

松葉の会「南極観測体験記」講演会の御報告

女性部は今年度松葉の会（女性部）と名前を変更して「南極観測体験記」講演会を5月17日（水）いきいきセンター金沢3階会議室で開催いたしました。講師は南極観測船 砕氷艦「しらせ」の元艦長さんで、経験に基づいた南極に関する貴重なお話をしてくださいました。

5月としては真夏のような暑さでしたが、男性会員の方もいつもより多く参加していただきました。

「しらせ」は文部科学省国立極地研究所の南極地域観測隊の輸送・研究任務のために建造された南極観測船で、建造費は文部科学省の予算から支出され、艦の運用は海上自衛隊により行われているそうです。

日本の南極観測は1956年（昭和31年）より行われ、1982年（昭和57年）～三代目の南極観測船となる初代「しらせ」が、2009年～2代目「しらせ」が南極地域観測隊の人員及び物資の輸送や観測を行っています。

日本から14000kmと遠く離れた南極へは、11月中旬東京湾晴海埠頭を出港し、オーストラリア フリーマントル港でしばらく停泊後、暴風圏を通過して南半球が真夏に入る12月末に昭和基地に到着。

翌年2月頃昭和基地を出発して、4月頃帰還。隊員の方々は現在はオーストラリアから航空機で帰国するそうです。

過酷な自然環境の中での作業の様子、南極条約の話、日本に持ち帰る大量のゴミの話、食事の話など、「しらせ」の南極観測支援行動について伺いました。

また「しらせ」の艦内では戦没者慰霊祭も執り行われ、基地では隊員の成人式、お正月のおせち料理など行事も大切にされていました。

沈まない太陽の動き、きれいなオーロラ、可愛らしいペンギンの姿も印象的でした。

気象学、地学、生物学など様々な学問の発展にも貢献してきた南極観測隊の方々のご苦勞に思いを馳せると共に 地球温暖化、世界平和など色々と考えさせられる機会にもなりました。

